

(19) 優良品種作出と種苗供給の安定による国産ワカメ 養殖のレジリエンス強化と生産増大

予算

競争的資金（農研機構・生研支援センター：イノベーション創出強化研究推進事業）

概要

本課題では、養殖ワカメにおける効率的な交雑育種技術と現場ニーズに応える優良株の開発を目指し以下の研究を行った。

大阪府岬町谷川地区では漁業者により柔らかな食感を有する養殖株が経年的に養殖に供されてきた（以下、谷川株）。この株は優良な食感を有するが、成葉の表面に強いしわが生じる生産上の大きな欠点がある。本課題ではこの欠点の改善を目指し、谷川株と滑らかな表面を特徴とする徳島県鳴門地域で利用されている養殖株（以下、鳴門株）との交雑株を作出し、その特性を調べた。

供試株 TnTn株：Tn株♀×Tn株♂（谷川株）
NN株：N株♀×N株♂（鳴門株）
NTn株：N株♀×Tn株♂（交雑株；食感優良株候補）
TnN株：Tn株♀×N株♂（交雑株；食感優良株候補）

本養殖の結果、両交雑株は元の株となる谷川株、鳴門株と比較して高生長で、谷川株と比べて成葉表面のしわも少なくなり改善を示した。一方、谷川株は他の株と比較して葉状部の厚みが薄く、食感の柔らかさを裏付ける結果が得られ、交雑株では、NTn株は鳴門株と同程度に厚く、TnN株は谷川株と鳴門株の中間程度の厚さであった。

担当者

山中智之、佐野雅基、堀耕友